

週目点

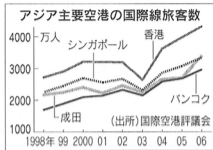


早稲田大学教授

川本 裕子

日本の国際的な表玄関として出発した成田国際空港が二十日で開港三十周年を迎える。一九七八年の開港当時は予想もつかなかったアジア諸国の急速な経済発展を受け、アジアのハブ空港の座を巡り、海外の国際空港と厳しい競争を続けている。

国際空港評議会（ACI）がまとめた二〇〇六年の国際空港の国際線旅客数ランキングで、成田は世界第六位。一位はロンドン（ヒースロー）で、アジアでは五位の香港が最高だ。成田は香港に大きく水をあけられ、近年はシンガポールやバンコクの国際空港



▶成田空港開港30周年（20日）

総合的な空港政策を

と激しく競り合っている。

またドバイの国際線旅客数はここ数年、年率二ケタの伸びを続け、成田を急追している。問題は空港本体だけではなく、空港への交通アクセスの向上策なども含めた総合的な空港政策を推進することが必要だ。

二〇一〇年に成田では約一割、羽田空港は約三割の発着能力増大が計画されている。しかし、これを最大限に活用しても、大幅に能力を拡大している中国や韓国の空港と比べると見劣りする。成田も羽田もさらなる発着能力拡大や利便性の改善策が欠かせない。

政府が昨年、日本を物流、観光、金融の国際拠点にしようとする「アジア・ゲートウェイ構想」を打ち出したことは評価できる。しかし、その後の空港会社の外資規制を巡る論争では政府の戦略意図が再び不透明となった。日本の国際競争力強化という初志を貫徹する取り組みを期待したい。